

研究通信

No. 8

研究會
講演會
文藝研究會
東京帝大
東京農大
東京師大
東京大學
東京學研
本選士會
日本文藝
文藝研究會
社會村落
研究會

年報と宿題について

有晉卷之三

集りで専心出来未、村研の仕事をおくれない。手には必ずお詫びを申上げねばならない。それだけに今後一層急テンポで村研の仕事を片づける必要がある。それはいろ／＼あるのでどうしても会員諸君からもつと積極的に働きかけて頂かねばならぬ。

(一)年報第一編「村塾社会研究の成果と課題」の出版はすでにいろいろ／＼準備して来たが、途中でやむを得ない事情の下に、収録者の変更もあったが(別刷)、出版を引受けてくれた群書社との交渉も漸く決定し、本年六月上旬に原稿を送って頂きたい。

でも寂しいので困るが、それにがなり本筋を特にせて考えて、肝心を編輯すべきで何ないかと考へてゐる。創刊の上と本筋のものを並べて、こも、それには機知をして貰ひものにして、心もはおくれても年報にうけたい。然るに、星群の狂歌ではなくとも良しと思ふ事と本筋の仙台大会で発表して頂いた方々には執筆の頃よりは当然してあるわけだから、もし不満があるとしても、今から完全に満足して頂きたまひ。そして成るべく早く見せて貰いて、研究会を開催させて貰っても良し。第二回は時潮社の都合で、本年出版出来ないので、二月二十日めどに来て、来年の四月上梓の予定である。この方は第三回ととつ連いつけても喜んで貰ひたい。

文部省圖書監修官の職務は、それと本邦の動向を
常に観察するに留まらず、その上に進んで、この業界の動向を
もとに、研究者、開拓者、実業家等の意見を自己の目撲にあつた。
古くは、研究者、開拓者、実業家等の意見を自己の目撲にあつた。
古くは、研究者、開拓者、実業家等の意見を自己の目撲にあつた。
古くは、研究者、開拓者、実業家等の意見を自己の目撲にあつた。

府議院に開する会員の意見は、すでに前二号で
発表したもの以外に着手しておらないので、
決定するのに非常に困っている。この研究通
じて述べて御返事をお願いするわけであるが、
まだ意見を頂かない人は是非しらせて頂きた
い。はがきで簡単でも結構だ。もう少し現
に上で至急決定したいと思うので是非お願い
する。もし出来たり各地区で、比較的多くの
人によって相談して、意見をまとめて下され
ば非常に有難いと想っている。この御返事を
四月十日迄に頂きたく、四月十六日に開く会
合で最終的に決定したい。

いし浦々の問題もすでに多見られたが、余りに多岐に亘るようでは決定に困るので、なるべく前号及び前々号にのせられたA氏とB氏との意見について採択される方向を行つて下されば幸甚と思つてゐる。(東京教育大) 年報第一輯村若生生活研究の成果と課題

理論の部	農村の部	経済	大内	力(遠東大作)	(原案小池甚之)
経済	矢木明夫(東北大作) (原案木下彰)	人口	中島惣太郎(大阪市立大作) (精算課課長重徳)		
農村の部					

質問上感篇

鳥
奇

卷之三

二年報第二輯。「これは去年の申合せで日本台大会の特請号による第である。年次に毎年の大会の宿題による講究の發表とそれに関する討論を逐に彼各自がその研究を一層推進する」

再び未熟な筋肉と感想を述べさせていただきます。「農地改革の社会的影响」という課題

題に私の社会評論意識は、もう切りこえないものになつた。

例をば、二、三選舉の発表に見られた趣向化の試み、全く社會經濟的趣向をもつて問題意識もさうなアメリカのロミヨニティー分析の數理統計的考え方や技術を日本の小さな諸者の分析、しかも歴史的な變遷改革に適用した落實化が兩殿に設歴史的に適用するのは無理ではないでしょうか。(私も數理統計は大分長い間ある研究開拓を慕しめられたので一応梗概について少しお話し)

解放と確々な社会的理想的關係の關係を教養的
に調査して簡単に西歐的關係を靜態的に記述
する意願すくて同じではないでしようか。農
地改革に關しては、歴史的にしろ、体系的、
力學的にしろ、村落集落のタイナミックス
を發展の過程の向のランシヨンの問題から起
源するところの方針が先のよう以感じがします。
私は畢竟中、常に問題を取扱せず、問題に
拘らず、三の村落を指したり、甚多くは村
落の組織にしてトトさせたりして、農地改革
に対する社會的影響がどう起つたかが、意外
に農民運動・農民組合の活動如何にかかって
いるのを知つて驚きました。課題で問題がい
かに具体的・限定されても、農地の解放とい
う刺戟に対して生じた種々の反応を説明しき
くすのに、どうしてもかかる農民の実践の問
題を取りあげねばはすまないような気がし
ました。「農地改革における農民運動の役割
」題分困難な、また急に提示したような印象
を与える課題になつてすら様ですが、こう考
えると現在の私には不可能に近いのですが、

提綱

集部

日本「民主勢力の復讐」の方が近いような気がします。もちろん、この問題には、多彩な共同研究が各々において必須になって来ます。アメリカ社会学の新しい技術も体系もこのなかでこそ一層有効に使いたいと願います。

以上なんとか首尾一貫しない観見になりますが、總の所をくわざいただければ幸いです。最後に斎藤氏の意見にありますように会員を上げても、機関誌の発行をしたいという御意見に賛成です。(高崎市五)

卷之三

二 研究会について

として老練な研究会がもたらしたといふことを知りませんでした。今回東大、東京教育大学を中心として研究会がはじめられました。研究会をもつていうことが上れほど困難であります。研究会のメンバーにとって問題になるのはくりかへすよりもありませんが、然しこうした研究サークルの一粒一粒があつまつて、やがて大きな树の成績がうまれでてくるものと感ひます。活潑な研究会の活動は規約にもうたはれております。この意感越です。論集部より、提案させていただきます。

黙后に四月十六日(金)午后五時半頃、七条館にて
お行なはる会員の打合せ集会を開きたいと存じます。
この集会におきまして、会員の方々により、
新年度の村研についての社り方の大綱を
決定し、会をすこめたいと存じますので、御
都合つき次第開会するつて御参加下さるよう
お願い、御拝教します。以上

来る四月十六日(金)午後五時半より東大赤門側学生会館第一居豪において、会員の打合せ集会を開催します。本年度の履歷、出版、研究集会、さらに研究通信の打ち方について話し合いたいと思います。細部合のつく会員全部の御寒葉と、馬鹿な諭諭と交相持してやみません。